

9%を大中に上回っている。このことは、安全で良質な国内産米を求める消費者のニーズに応えられるとともに、稲作経営の安定化に資するものと評価している。

町では、これらの経緯を踏まえ、農政審議会で十分協議を重ねた結果、県の配分面積によることに同意を得たので、農家組合長会議を開催し、各農家に協力をお願いしたところである。

②減反については、町としても決して歓迎しているわけではないが、国内産米を基本とした国民食料としての安全供給と農家経済安定のための減反政策は止むを得ないものと考え、転作目標が達成できない場合、補助事業が採択されにくくなるなどのペナルティもあるので、農家の方々には不利益が生じない方向で協力していただきたい。

国内産米の学校給食

問 米不足により消費者の不安が高まる中、緊急輸入された外国産米から、異物の混入やカビの発生が確認され問題となっている。

答 政府は、学校給食には安全な国内産米を100%供給することだが保証はあるのか。

答 学校給食米については、原則として国内産米の1等及び2等の新米を使用することとされ

ており、これまでも日本体育学校保健センターが、食糧庁から買入れた国内産米を使用してきた。今年は昨年の大凶作で不足が見込まれるが、その分については、自主流通米で対応することなので外国産米を使用することは無い。



海の子どもの国の改善

問 海の子どもの国は、施設の老朽化と近隣への同様な施設の開園から、年々利用者が減少している。

答 町も県に対し、施設の改修等を要望しているようだが、町独自の構想はないのか。

答 町としては、ドーム式の温水プールや水族館等、年間通して利用できる施設への改善を検討しているが、施設そのものが県のものであり、維持管理についても県によって行われているので、今後も要望を重ぬ、早期

に通年型施設への改善が図られるよう努力して参りたい。

老人保健福祉計画

問 高齢化社会に備えた老人保健福祉計画の進捗状況は。

答 今年1月までに作成した原案を、3月に入って計画策定委員会にて協議いただいたので、今後は計画策定懇話会の意見を聞いた上で、3月中に成案とし、4月から執行する予定である。

平成6年度の重点施策

問 来年度特に重点をおいている事業計画について伺いたい。

答 パブル経済の崩壊により非常に厳しい財政状況ではあるが、平成6年度も長期構想に基づき第2次基本計画により、各事業の積極的な推進を図っていく。主なものとしては、理想の町づくりの目標を掲げた町民憲章の制定を始め、スポーツ広場1期分の完成、駅東側用地の取得、福祉作業所の建設、町民生活に密着した道路・排水路の整備、その他農業・商業・工業の振興を図り、バランスのとれた町づくりを進めていく。また、県事業として進められている県道横芝下総線バイパス工事の早期着工にも努力していく。

道路問題

問 横芝小学校から県道横芝上

界線へ通じる改良工事が中断されているが今後の見通しは。

答 全線改良する計画ではあるが、沿線に住宅が密着しているので、地権者の十分な協力が必要と考えている。

成田財特法

問 5年間の期限延長が決定した成田財特法によって町はどのような恩恵が得られるのか。

答 成田財特法は、空港周辺整備のための国の財政上の特例措置として昭和45年に制定された時限立法で、この程、5年間の

期限延長と併せてその適用区域に当町と松尾町が加えられることになった。

町が計画している事業の中では、農業集落排水事業と消防組合で購入を予定している化学消防車が優先採択事業として認められ、化学消防車については更に500万円の嵩上補助の対象にもなっている。

今後は町も適用区域として加えられたので、空港周辺地域整備事業を通じて国や空港公団など関係機関に更に要望して参りたい。

心豊かな福祉社会を目指し

第一回横芝町社会福祉大会

町社会福祉協議会（川島英夫会長）では3月15日、ふれあいと支えあいのある心豊かな福祉社会を目指して——をスローガ

ンに、第一回横芝町社会福祉大会を開催しました。

式典には、県等の関係者、實川町長、町議会議員などの来賓の方々をはじめ、町内の福祉関係者約300名が参加し、スローガンに掲げた地域社会の実現を誓いあいました。

また、第1回大会ということので、さまざまな活動に貢献した11団体63個人に感謝状等が贈られたほか、ふるさと交流文化研究所長の松井安俊氏を招いて、「福祉の心を育てる地域の協力と課題」と題した講演会や、歌や舞踊の演芸発表も行われました。

